



Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2020年1月 vol.8

3歳の娘が絵本を持ってきます。少し前は私が本を読み、物の名前や意味を教えていたのが、最近は娘が本のページを自分なりにめくり、読んで聞かせてくれます。

本は単に知識を向上させるだけではなく、表現力や人間力を高めるものだと思っていて日々感じています。オアシス文庫では年に2回、新しい本が加わっています。昨年10月にもOasis meets Booksで紹介された本をたくさん購入していただきました。是非お読みください。

夏の雪 ～新酔いどれ小藤次(十二)～ / 佐伯 泰英

デイサービス オアシスキズリ / 介護士 皆村 竜子



数年前より江戸庶民の日常生活を描いた小説の面白さの虜になり、現在読み続けている作品です。“お槍拝借”という事件で江戸中の人気者となった長屋住まいの小藤次。



その腕を買われて次々と頼まれ事が舞い込み、いつも見事解決し、その事を話題にした瓦版が売れるというまるで漫画のような展開の話ですが、この『夏の雪』は、事情を知った小藤次が自らお節介をやき、余命数ヶ月の名人花火職人にその技を息子や花火職人に伝授させ、満足して命を全うしてもらうという内容です。

長屋の人達の近所付き合いや町中の店主の思い入れなど、今では見られなくなったほのぼのとした人間模様が描かれ、ほっこりとした気持ちにさせてくれる小説です。

・次回⇒ デイサービス オアシスキズリ / 介護士 出来 希望

おかあさんのそばがすき ～犬が教えてくれた大切なこと～ / 今西 乃子

デイサービス オアシス長瀬 / 看護師 藤木 千恵



“犬を飼う”ことは“命を預かる”こと。

この本は、著者が蘭丸と家族になってから、12年以上の思い出を愛情いっぱい詰めたものであり、犬と家族になることの素晴らしさを教えてくれる蘭丸があさんの記録です。



家族の一員となったコーギーの仔犬。蘭丸と名付けられた愛くるしい犬は、わずか数年で飼主の年齢を追い越し、いつしかおじいちゃん犬に…。ペットの看取りまでを追うノンフィクション写真読み物となっています。

子ども用にと買った本で、小さい頃から亡くなるまでの写真も載っていて文章も読みやすくなっています。最後まで命を見捨てないことの覚悟を持ってもらうために読んで欲しい本。安易に「可愛いから」という理由だけで犬を飼うのではなく、犬と暮らすことがどういうことなのか、犬の一生を通し“命を預かる”ことの責任を考えさせられる一冊となっています。

・次回⇒ デイサービス オアシス長瀬 / 看護師 杉本 みどり

天上の虹 / 里中満智子

グループホーム オアシス平野 / 介護士 良 ゆかり



この漫画文庫は、元々コミックから文庫版として出版されたものですが、飛鳥時代に活躍した持統天皇が主人公となっています。



出生時から天智天皇に操られた生活を送り、恋人であった有間皇子を謀反の罪で亡くしてからは、女性として強く生きていくにはどうすればいいのかという葛藤を常に持っていた人だと思います。

そして自らが天皇となり、謀反を謀っていた大津皇子を処刑したところは、政治家として生きていくためにはどうすべきか、という二面性を持った女性とも言えるかも知れません。

今日、女性の社会的立場は向上していますが、その先駆けが持統天皇であったと思います。

文庫化された宝塚歌劇で取り上げられるほど人気がある作品なので、推薦させていただきます。

・次回⇒ グループホーム オアシス平野 / 介護士 宮川 彰子

嫌われる勇氣 ～自己啓発の源流アドラーの教え～ / 岸見 一郎 古賀 史健

介護支援センター オアシス長瀬 / ケアマネジャー 横川 久美子



心理学の三大巨頭と称されるアルフレッド・アドラーの思想『アドラー心理学』「すべての悩みは対人関係の悩みである」「人はいまこの瞬間から変わるし、幸福になる事ができる」「問題は能力ではなく勇氣なのだ」と説く哲学者のもとに、納得のいかない青年が訪れ、その真意を問いただそうと議論します。



哲人と青年による対話型になっていて、青年が抱えている疑問に、哲人は一つ一つ丁寧にわかりやすく具体策を示しています。

最後に青年は笑顔で部屋を出ます。新たな自分の一歩を歩み始めます。心理学・哲学は難しいイメージがありますが、会話型でわかりやすく、青年がかなり詰め寄って質問しているところも面白く、あっという間に読み終わっています。『アドラー心理学』の入門的内容でわかりやすく、ベストセラーになっています。

・次回⇒ 介護支援センター オアシス地下鉄平野駅前 / ケアマネジャー 水野 伸一

M 愛すべき人がいて / 小松 成美

老健 オアシス 入所介護 / 介護士 井上 君子

福岡で生まれ育った“あゆ”は、地元で芸能界にスカウトされたものの、大きな仕事は銀行のイメージガール。1995年、東京の大手事務所に所属。ドラマのエキストラなど小さな仕事はあるものの売れる気配はなく、その頃にエイベックスへ誘ったのが、エイベックスの創始者で音楽プロデューサーでもある松浦氏。そして歌姫、浜崎あゆみが誕生しました。



そんな中、FAXで松浦氏に恋心を綴り、交際宣言。その後、1stアルバムでオリコン1位、9枚目シングルで初のミリオンヒット。アーティストとしては大成功を収めるが、故に一人の女性として幸せになることは許されず破局。後日、松浦氏から“あゆ”へ「ハワイに住んで、向こうにスタジオを作るよ」と一本の電話が届くが、この連絡を最後に「M」と登録された番号から電話が鳴ることはありませんでした。そんな深い悲しみを、歌うことで乗り越えデビュー20周年を迎えた。

息子が“あゆ”のファンで昔からCDを聞き、興味深い本だったので読みました。



・次回⇒老健 オアシス 入所看護 / 看護師 田上 浩二

利用者に心地よい介護技術 / 安藤 祐介

特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 永井 純子

ユーチューバーとしても活躍されている現役作業療法士さんが書かれた介護実践の本です。



この著者は、とにかく優しく温かい方で、私の尊敬する方でもあります。どうして、こんなに優しくいられるのかと感心します。介護をする中、上手いかできないかがあったり忙し過ぎたりすると、どうしても余裕が無くなり優しい気持ちが遠のくことがあります。この本を読むと優しさが何よりも必要だと実感させられます。実用本なのに「人として大事なこと」「想い」の大切さなども学べます。介助方法も絵や写真で解りやすく説明されており勉強になります。

介助を行うにあたり、視覚・聴覚・触覚・臭覚・味覚などの五感を有効に活かして心地よいケアを行うことが出来、介助の質も上がること間違いありません。皆さんに是非読んでいただき、活用していただくと嬉しく思います。

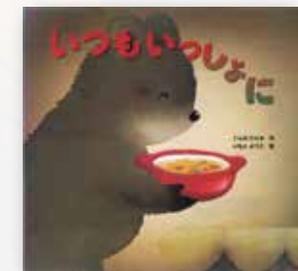


・次回⇒特養 オアシス寿安 生活支援課 / 管理栄養士 福岡 朋実

いつもいっしょに / こんのひとみ作 / いもとようこ絵

老健 オアシス デイケア・ロング / 介護士 村田 あつ子

「癒しの本といえば動物が一番」と思い探していると、この本が目にとまりました。作者・こんのひとみさんは体の弱い息子さんのために子守唄をつくって歌ったことがきっかけで、シンガーソングライターに。代表曲は「NHKみんなのうた」で流れているそうです。



「ある日、くまの家にうさぎがやってきました。毎日、うさぎの為に世話をするくま。ところが、うさぎはくまのそばでニコニコしているばかりで何もしません。くまはだんだん不安になってきました。」

とても切なくて奥が深く、何回も読み返しました。そして孫と一緒に読むことが出来ました。この一冊を通して益々「日頃接している利用者様にも寄り添っていける人に成長したい」と思いました。是非読んでみて下さい。



・次回⇒老健 オアシス デイケア・ショート / 柔道整復師 岩谷 篤

オアシス文庫 recommend



犬と私の10の約束 / 川口 晴

私は現在犬は飼っていませんが、元々犬が好きのため、このタイトルがふと目にとまりました。

主人公のあかりが12歳のとき母親が脳腫瘍で亡くなるのですが、亡くなる前に、娘が飼いたがっていた仔犬をコンビニの店長から貰い受け、自然な形であかりと会わせ、飼うこととなります。

その時に母親と交わした「10の約束(犬の十戒)」が興味深いです。

また、ソックス(犬)と少女の絆を描く感動作でもあります。

犬は人間と話すことは出来ないけれど、私たち人間よりもずっと、私たちのことを理解してくれているのかも知れないと感じました。嬉しいときは一緒に走り回って、寂しいときは傍にいてくれて…別れは切ないけれど、ソックス(犬)がもたらした幸せの数々が心が暖くなる一冊です。

是非お手に取ってみてください。

(教育委員会 田上 浩二)

老健入り口の書棚「オアシス文庫」から貸し出せます▶



編集後記

あけましておめでとうございます。今号も、色々なジャンルの本をご紹介いただきありがとうございます。2019年10月に新しく購入した11冊のうち、6冊はこのOmBでご紹介いただいた本です。ブログにも載せていますので、気になる本がありましたらお気軽に

ご利用ください(^^)

「オアシス文庫に置いてほしい」というリクエストがありましたら、近くの教育委員会にお伝えいただくか、書棚のリクエストボックスに、書籍名を書いた紙をお入れください。本年もよろしくお祈りします。